

■石川巖(詩仙堂主人) 江戸・明治期の書誌研究家で、稀に見る書物通、古書籍商から敬された畸人。震災後の書物復興に貢献。

いしかわいわお
大久保暗殺・1878＝ 山形県飽海郡遊佐村の川行宮田で生まれる。

明治14年政変1881＝ 3歳：
叔父の寺院に養われ、

国民之友始・1887＝ 9歳：

帝国憲法発布1889＝11歳：
南遊佐村の千代田小学校を出て以降、古典を師とも友ともして独学、稀に見る書誌通になって行く一方、他人と相容れぬ性格にもなる。

日清戦争始・1894＝16歳：

白馬会・・・1896＝18歳：

日露戦争終・1905＝27歳：
満鉄発足・・・1906＝28歳：この年発行された島崎藤村の「破戒」を読んで共感共鳴、のち藤村の著書を初版本で蒐集してすることに、
韓国反日暴動1907＝29歳：東大史料編纂所に雇われ、明治初期の各種資料、明治文学の資料蒐集をし、書誌研究するうち、

明治天皇没・1912＝34歳：

第一次大戦始1914＝36歳：

ロシア革命・1917＝39歳：江戸文学に深い関心を持つようになり、とくに愛好した西鶴を中心に、自ら、江戸時代の珍本稀書を蒐集し、「耽奇郎文庫」に家蔵していくも、独占せず、退職。*古本屋の鑑札を受けて、{従吾所好社}を設立し、珍書保存会を開いて、禁止されていた西鶴の好色本をガリ版刷りで発行、同好者から感謝され、たびたび禁止されるも執拗に発行するほか、江戸時代の重要な図書を次々と複製刊行し、月刊雑誌{奇書珍籍}を発行して、江戸時代文献の紹介につとめるうち、

原敬首相暗殺1921＝43歳：

水平社結成・1922＝44歳：_一般公開できるかたちの{新選絵入 西鶴全集}として、俳諧篇一卷から編纂発行した直後に、
関東大震災・1923＝45歳：_大震災で、それまで各所に保管されてきた貴重な書物の多くがうしなわれると、
護憲三派圧勝1924＝46歳：元禄時代の「阿誰軒編集 俳諧書籍目録」を校訂し刊行。_「校正の神様」神代種亮と共に、雑誌{書物往来}を

治安維持法・1925＝47歳：

金融恐慌・・・1927＝49歳：_{書物往来叢書}として、演劇篇、歌謡篇、花街篇に分類して、江戸時代の文芸資料を復刻刊行、
_ {書物往来叢書}別輯を刊行。「明治初期戯作年表」を編纂発行、単なる年表ではなく、戯作雑著を5種類に分類して解説をつけた画期的なもので、明治初期の文化の鳥観図ともいえる良書である。とくに、新体詩についての研究は並大抵のものでなく、{日本古書通信}誌上に「稀本新体詩書解題」を連載している。若い知友山口武美を援けるべく、彼の、シェークスピア文献についての「日本沙翁書目集覧」を発行、

共産党事件・1928＝50歳：

_{新選絵入 西鶴全集}の最後を好色本として終えることで、西鶴本の復刻複製に大きな功績。{書物往来}は{東京新誌}と改題してなお発行が続けられるも、廃刊の止む無きに至るが、震災後の書籍復興に大きな貢献、自ら主宰編集した雑誌中の白眉になった。

満州事変・・・1931＝53歳：

五一五事件・1932＝54歳：

国際連盟脱退1933＝55歳：新体詩を愛好したことから、{詩と散文}という雑誌を発行する一方、川柳研究家大曲駒村を編集発行人に好事家向きの趣味雑誌{あかほんや}を発行、古本屋の鑑札を持っていて、珍本稀書の売買もやることはあったが、学者、研究者、趣味好事家に近い生き方をし、江戸明治期の文献資料について溢れるばかりの知識を持って、窮乏生活に甘んじながら、古書の探究に金をおしまず、千駄木で出発した{従吾所好者}は、大塚から、この頃、本郷真砂町で、小唄の湯朝竹山人を援けるのを兼ねて同居、のち最後の練馬へと転々としながら、東京のあちこちの貸席や会館で開催される古書の即売展覧会場には必ず現れ、若い古本屋連中らに講釈

日中戦争始・1937＝59歳：

大政翼賛会・1940＝62歳：

新体詩を愛好する間、もともと尊敬していた詩人島崎藤村の初版本全ての入手も完了したことから、*美事な「藤村書誌」を編纂して{大観堂}から刊行、藤村文学研究者に感謝されたばかりでなく、3年後には死去する老藤村を感激させ、生涯の労作中出色のものとなった。

日米開戦・・・1941＝63歳：

_戦局の悪化で心身をいためつけられ、諸事不自由になるも、書物への愛着は変わらなかったが、

敗戦・・・1945＝67歳：

敗戦まもなく、練馬南町の仮寓で_病床に臥し、33年前に発行された木下利玄の処女歌集で、凝りに凝った体裁から稀観珍籍の代表的な「銀」を友人が見つつけてくれ持ってきてくれると、本を撫でまわして涙し、'年の瀬に三百金を投じて利玄歌集「銀」を抱いて死にゆくわれば」と別の友人に書き送るも、病勢は一気に進んで最期を覚悟、2,3の古書肆を招いて、蔵書の大半を引き取って貰った後、辞世'今の世に思ひおくことなけれども、名残惜しきは愛書なりけり'を遺して、没した。